



「妙見山陣備の図」生野義挙絵巻

生野義挙から150年

維新の魁を振り返る

文久3年（1863）10月、日本の歴史に残る事件が生野で起こりました。「生野義挙」（生野の変）と呼ばれる事変です。

およそ270年にわたって続いた徳川幕府の政治に対する不満から改革を求め、欧米諸国の脅威から国を守る攘夷（じょうい）を志す人たちが、但馬各地の農民と一緒に幕府の拠点である生野代官所を占拠して挙兵しました。結果はわずか3日間での破陣となりましたが、この4年後に起こる明治維新の魁（かみ）になったと言われています。

今月の広報では、今年で150年を迎える「生野義挙」について、その概要とともに、節目を迎え市内外で行われている取り組みなどについて紹介します。

（※）現在、生野義挙は「生野の変」「生野の乱」の呼称が一般的ですが、幕末期の攘夷・討幕の挙兵に使用された歴史的用語であることから「生野義挙」と呼称しました。

幕末の情勢

徳川幕府はながらく鎖国政策をとってきまされたが、当時の欧米諸国から、貿易の相手先として、また、長距離航海の中継点として日本は魅力的でした。嘉永6年(1853)に来航したペリーはアメリカ大統領の親書を携え強圧的に開国を迫りました。そして、嘉永7年(1854)3月3日、幕府はペリーとの間に日米和親条約を結び、次いでイギリスやロシア、オランダなども締結を行い二百年続いた鎖国政策に終止符を打ちました。

幕府のこのような動きは尊皇攘夷派の活動を刺激し、攘夷派に対しての弾圧(安政の大獄)や、さらにその中心人物であった井伊直弼を暗殺する事件(桜田門外の変)が起こります。そうした改革や政争が繰り返されるなか、情勢は長州藩や攘夷派の公卿(国政を担う公家)が主導権を握る攘夷政策へと方向転換していきました。

一方、嘉永7年3月25日、外国船が但馬沖を通過するという事件が起こりました。当時は、欧米からの脅威を排除するために、海岸の防衛が課題となっていました。日本海に面した但馬は、京都に近いことから、また、生野代官所の軍備が手薄であったことから、ことさら大きな問題となっていくます。

このような状況に危機感を募らせたのは、養父郡能座村(現養父市能座)の北垣晋太郎をはじめ、養父郡高田村(現朝来市和田山町)の中島太郎兵衛、朝来郡竹田町(現朝来市和田山町)の太田六右衛門、朝来郡佐中村(現朝来市佐中)の進藤俊三郎ら但馬の豪農たちでした。彼らは農民を集め兵士として組織し、海岸防衛の備えにしようとしていました。

文久3年(1863)1月、北垣晋太郎は京都に出て幕府と朝廷に農兵組織組立の働きかけを行いました。その結果8月14日に幕府から、16日には朝廷から丹後久美浜・但馬生野両代官所に農兵組立の許可が出ました。

大和天誅組の変

文久3年8月17日、孝明天皇による攘夷祈願のための大和行幸計画の露払いとして、幕府の天領であった大和五条の代官所が攘夷派浪士の「天誅組」によって襲撃され、代官が殺害される事件「天誅組の変」が起こりました。

ところが、天誅組が挙兵した直後の8月18日、京都では薩摩・会津藩による政変が起こり、長州藩とともに朝廷内で強硬に攘夷を進めていた過激派公家が京都から一掃されてしまいます。計画されていた天皇の大和行幸も中止となり、天誅組は苦境に立たされることになりました。

幕府からの弾圧を逃れて但馬に潜伏していた、平野國臣(元福岡藩士)・美玉三平(元薩摩藩士)・農兵組立の中心的人物北垣晋太郎たちは、天誅組の救援のため但馬農兵の起用を考えました。

9月5日、養父神社の神宮寺(普賢寺)で、養父・朝来・城崎三郡の有志30人あまりが集まり第一回の農兵組立会議が開かれました。続いて9月19日、二回目の農兵組立会議が高田村の中島太郎兵衛宅で開かれ、天誅組に呼応する形で生野代官所占拠を画策し、その期日を10月10日と決定しました。

代官所を占拠するには、暴動や一揆ではなく総帥として統率をとる人物が必要と、同志の中から、平野



総帥として迎えられた澤宣嘉

國臣・北垣晋太郎の二人が長州に赴き、京都を追われた七卿(攘夷派の7人の公卿)の一人で周防三田尻(現山口県防府市)に滞在していた、澤宣嘉を説得し迎えることになりました。

文久3年10月2日深夜、澤宣嘉をはじめ、奇兵隊第2代総督であった河上弥市(南八郎)と隊士13人などを中心とした一行27人は三田尻を脱し、10月9日、播州飾磨港(現姫路市)に到着します。

ところが情勢は急変します。武器調達のため京都へ赴いていた進藤俊三郎から、天誅組は既に破れ壊滅したとの知らせが入ります。

生野での挙兵計画は意味を失ってしまいました。平野國臣や但馬出身の多田弥太郎(出石藩士)、北垣晋太郎、進藤俊三郎らは中止を促し、澤宣嘉に鳥取方面に逃げることを勧めます。しかし奇兵隊総督を辞し隊士を率いてきた南八郎らは強硬論を主張します。

結局、強硬論に引きずられ10月11日、森垣村(現生野六区)に到着、延応寺に入り、その夜には生野銀山町の大山師であった丹後屋太田次郎左衛門方に移りました。

代官所占拠

翌12日午前2時ごろ、志士たちは生野代官所に押しかけ、占拠し本陣としました。しかし、代官所側は挙兵の動きを事前に察知しており、この時にはすでに救援の密使を出石藩・姫路藩の各藩に派遣していました。

代官所に置かれた本陣では但馬の村々に対し、20歳以上40歳までの男子は残らず刀・槍・鉄砲等の武器を持って代官所に集まるよう生野御役所名で指示。12日の昼ごろには2〜3千人ほどの農民が集まり、これを村別に組分けし、一番隊から八番隊に編成しました。

一方、出石藩では生野代官所からの救援要請を受け、13日の早朝には一番手として950人、二番手、三番手としてそれぞれ1333人の藩兵が生野に向かい出兵しました。

破陣

生野の本陣では出石藩からの出兵を知り、これを迎え撃つため南八郎以下18人が山口村の西念寺に出陣し、夕刻には妙見山に布陣しました。

その後、出石藩の出兵に引き続き豊岡藩、姫路藩も出兵したとの知らせが伝わり、再度、解散論、決行論の論議が持ち上がりました。本陣に立てこもり藩兵を迎え撃つか、自刃するか、丹波経由で京都へ向かうか、解散するか。結局は強行論者の南八郎らが不在であったことから、解散が決定されたのです。

この決定を多田弥太郎が妙見山に立てこもっている南八郎に伝え説得しますが、南らは聞き入れませんでした。

多田弥太郎はその旨を澤宜嘉に伝えるとともに脱出を勧めます。澤宜嘉はこの際に解散し再挙を図ることを決意し、13日夜10時ごろ「各部所巡視」と称し、部下数名とともに本陣を脱出しました。

その他の志士たちも、13日夜半から14日早朝にかけて生野を落ち延びました。

生野を脱出した志士の内、澤宜嘉以下十数名は逃げ延びることができましたが、残る多数の志士たちは途中で討ち死にか、自刃または捕縛された後に獄死



奉献

議論より

実を行へ

なまけ武士

国の大事を

余所に

見る馬鹿

皇国草莽臣

南八郎(花押)

南八郎が残した奉献額(山口八幡神社所蔵)

するなど悲惨な最期となりました。

一方、妙見山に布陣していた南八郎ら13人は、14日午後になつてから生野本陣に引き上げるため、山を下りましたが、志士たちから離反した農兵たちがしきりに発砲してくるので、「これ以上無益な殺生はすまい」と、妙見山麓の山伏岩で全員自刃しました。

「議論より 実を行へ なまけ武士」

国の大事を 余所に見る馬鹿

妙見堂での南八郎の句です。思うように事が進まないことに対する無念さと、志士たちの混乱ぶりがわかります。

こうして、生野義拳はわずかのうちにその幕を閉じました。

失敗の要因

なぜ志士たちは生野で挙兵したのでしょうか。

先に説明したように幕末、但馬には、海外からの侵攻を防ぐために、農兵が組織されつつありました。

生野には銀山を統括するために幕府の出先機関である代官所が設けられていましたが、代官所を占拠することは、幕府の権威を失墜させ倒幕への氣勢を上げるのに格好であり、加えて代官所自体の武力も皆無でありました。また、銀山の資金力・政治力についても重く考えていました。

しかし、農兵組織は8月に取り立ての指示が出されたばかりで、訓練は一度も行われておらず実体は準備中であり、農兵も村役人の命ずるままに集まってきたものでありました。

一方、代官所では川上猪太郎代官は出張中のため不在であったものの、元締め武井正三郎は、表向きは志士たちに対して代官所を明け渡しましたが、事前に拳兵の情報をつかみ、占拠の寸前に周辺の各藩に援軍の密使を送るなどの機敏な行動をとりました。

そのようななか、志士たちの間でも、天誅組の壊滅後に、慎重派の平野國臣らと、脱藩をし背水の陣でぞんだ南八郎ら強硬派との間で、解散するか決行す

るかの議論が行われるなど一枚岩ではありませんでした。

また、事前に内約があつた長州藩士、鳥取藩士などの応援も得られませんでした。

維新への魁(さきがけ)

生野義拳は、結果的には失敗に終わりましたが、次のような点を知らしめました。

それは、武力を持たない代官所の意外な弱点が明らかになる一方で、鎮圧する諸藩の力と幕府体制はまだまだ強固である事と、討幕運動は、各地で散発的に起こしても駄目であり、藩総力を挙げて組織的に挑まねば成功しないという事でした。

天誅組の変、生野義拳はこれら戦略の変更点でした。その後、薩長同盟の成立を経て明治維新を迎えることとなりました。

このようなことから、「生野義拳」は、維新の魁と言われています。



志士たちが自刃した山伏岩(山口護国神社内)

北垣晋太郎と進藤俊三郎

生野義挙の数少ない生き残りのなかで、但馬出身者として、明治に入り活躍した人物がいます。

農兵組立の中心人物として、生野義挙にかかわった、養父郡能座村(現養父市能座)の北垣晋太郎(北垣国道)は、義挙が破陣した後各地で潜伏します。

その後は、鳥取藩に仕官し、柴捨蔵や八木竜蔵と名乗り、戊辰戦争に際しては、山陰道鎮撫使西園寺公望の随行、北越戦争に参加するなど倒幕運動に身を投じました。

明治になってからは、高知県令、徳島県令、京都府知事、北海道長官などの要職を歴任し、京都府知事時代には琵琶湖疏水を完成させるなど我が国の発展に尽力しました。

朝来郡佐中村(現朝来市佐中)の進藤俊三郎は、武器周旋方として生野義挙に参加しました。京都で武器を調達し搬送の途中で生野破陣を知り、因州(鳥取)へ逃れました。その後名前を「原六郎」と変え、生家をはじめ、江戸や京など各地に潜伏し続けます。明治4年(1871)、海外留学を果し、2年間という短期留学には満足せず、公費が打ち切られて



琵琶湖疏水のほとりに立つ北垣国道の像
(写真協力・養父市)



原六郎が頭取を務めた旧横浜正金銀行本店
現在は神奈川県立歴史博物館となっています
(写真協力・神奈川県立歴史博物館)



進藤俊三郎生家(佐中)

進藤家は代々続く豪農で、生家は「佐中の千年家」として残されています。

青谿書院(養父市八鹿町宿南)
儒学者・池田草庵が開いた漢学塾。幕末から明治の初めにかけて全国から673人が入門し、日本の近代化を担った多くの人材を輩出しました。生野義挙の中心的人物北垣晋太郎、進藤俊三郎も薫陶を受けました。

からも自費で経済学を学び、帰国後は第百国立銀行創設を始めとして、横浜正金銀行頭取に就任して同銀行の改革などを進めます。
また、東武鉄道、山陽鉄道、播但鉄道などの多くの鉄道会社の設立。さらには帝国ホテルの開業にも関わるなど、我が国の金融・産業界の中核的存在として活躍しました。

維新の魁 生野義挙150年記念特別講座

9月7日、生野メインホールで「維新の魁、生野義挙150年記念特別講座」が行われ、会場には定員を大きく上回る100人近い皆さんが集まりました。この講座は全3回の予定で、第一回目となるこの日は「生野の変をどうとらえるか、新史料の紹介もかねて」をテーマに、神戸大学大学院人文学研究科研究員の前田結城さんを講師に開かれました。

前田さんは、生野義挙(生野の変)を時系列で紹介したうえで「義挙とは浪士を中心とした拳兵組が、尊王攘夷を実現するため、農兵の組織化を強引に実現しようとして起こしたものである」とし、「取り立てられた農民層は生業を維持することが大事であり義挙の意識はなかった。加えて、拳兵した当人たちにもとまどいがあつた」と解説。

「生野の変は、幕藩権力と拳兵組における、農兵の動員の主権をめぐる争いであつた」と説明しました。



第2回「志士たちの横顔」

- ◎日時 10月5日(土) 午後1時30分～3時
- ◎会場 あさひささゆりホール
- ◎講師 石原由美子さん

(豊岡市出土文化財管理センター)

※第3回目は未定です。

決まり次第広報・ホームページなどでお知らせします。

問・生野書院 ☎679-14336

「人々と町に大きな影響を与えた生野義挙」

杉浦健夫さん(生野2区)



生野義挙を経済的な観点からみると、江戸時代から「生野銀山を制する者は天下を制す」と言われていたように、軍資金獲得が目的ではなかったかと考えられます。

ちょうど生野代官所の川上代官は出張中で不在でしたが、残った役人の気転で資金などを隠し、浪士たちは十分な資金を得ることができずに、集まった農兵を養えず破陣にいたったのが真相ではないでしょうか。

その後、代官の支配がしばらく続き、慶応4年(1868)には、長州軍、薩摩軍があいついで進駐し、明治に入ると政府の管理下におかれ、銀山も鉱山師の支配から官営鉱山になるなど、体制が大きく変わっていきます。

明治4年(1871)10月には、生野鉱山で焼き討ち事件が発生し、多くの人々が生野を去ります。焼け野原となった土地に新しい施設を建設する労働者として、発展する鉱山に職を求め、全国から人々が集まってきましたが、このことが生野の文化を形成する源になったといえるでしょう。

生野義挙からの大きな動きは、生野の町と人々に大きな影響を与えたのではないのでしょうか。

「生野義挙の志を後世に」

濱定夫さん(高田区)

高田の国道9号線沿いの生家の近くに、中島太郎兵衛、黒田與市郎兄弟の顕彰碑があります。

この顕彰碑は、昭和15年、当時の大蔵村総出で建立が行われ、完成を記念して盛大な式が行われました。

建立や式など、手伝いとして参加していた当時、私はまだ十代半ばであったためか、顕彰碑に込められた意味などはよく分かりませんでした。

日本は、それから戦争を経験し高度成長期を経て現在があるわけですが、そのような時代を過ごしてきたなかで、この地に使命を持って国のために兄弟で命をかけた人たちがいたことを忘れずに、我々も社会のために尽くさねばと感じます。

高田区では、生野義挙の日を前にした毎年の秋祭りの際に、おまつりをさせていただき、顕彰碑を守つてきていますが、これからも絶えることなくふるさとの誇りとして受け継いでいってほしいですね。



生野義挙150年記念式典

どなたでも参加できます。

◎日時 11月23日(土・祝) 午後1時30分

◎会場 生野メインホール

◎参加費 無料

◎内容

第一部 記念式典

第二部

児童演劇「ふるさと生野物語」

(生野小学校4・5・6年生)

講演「天誅組と生野の変」

講師・舟久保藍さん(天誅組研究家)

記念公演 講師・一坂太郎さん

(山口県萩市特別学芸員)

問・教育委員会社会教育課 ☎677-2116

生野書院 特別展

「維新の魁、生野義挙150年」

◎会期 平成26年3月30日(日)まで

◎時間 午前9時30分〜午後4時30分

◎会場 生野書院

◎入館料 無料

◎休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)

年末年始

妙見堂で、南八郎が

書き残した奉獻額や、

壁に残された戸原卯橘

の句などをはじめ、豊

岡市が所蔵する、生野

代官所と出石藩との関

係を記した史料など、

生野義挙関連の史料を

多く展示しています。

一部展示史料は12月

1日までの公開です。この機会をお見逃しな

いよう、ぜひご来館ください。

問・生野書院 ☎679-4336



生野義挙キャラクターを制作

今年度、生野義挙150年を迎えるにあたり、生野町観光協会では地域の人たちや観光客の皆さんにもっと生野義挙を知ってもらおうと、宝塚大学と連携して、昨年11月、キャラクターを制作しました。

生野義挙に参加した志士の中から、南八郎、澤宣嘉、平野國臣、戸原卯橘、多田弥太郎の5人を選定しました。

今回5人のキャラクターについては、イケメンの当時の志士の姿と現在に転生した志士の姿（ハムスター）の2パターンのキャラクターを企画、イケメンキャラクターを宝塚大学の卒業生で、フリーの作家として活躍中のIRIAさんが、ハムスターのキャラクターを、宝塚大学4回生（制作当時は3回生）の松本悠佳さんが制作しました。



キャラクターを制作した松本さん(左)とIRIAさん(右)

「キャラクターを通じて

生野義挙の魅力を多くの人に

松本悠佳さん(宝塚大学造形芸術学部4回生)

生野義挙ハムスターを描くにあたって、愛される可愛いキャラクターを描きたいと思いました。多くの皆さんに好きになってもらえることは私も嬉しいですし、生野の人たちや生野に興味を持つ人たちに喜んでもらえることで、さらに活いきと魅力的なキャラクターになれると思っています。彼らを描いているととても楽しいですし、私自身も大好きになりました。

ハムスターキャラの制作では、イケメンキャラが先に描かれ、それを元に制作を行いました。その際、イケメンキャラのイメージを壊さず、なおかつ生野義挙ハムスターとしての個性・魅力を出そうと思いつきながら制作しました。かっこいいイケメンキャラ、可愛いハムスターキャラのそれぞれの魅力を比べつつ、両方組み合わせさせて楽しんでいただけたらと思いつきながら描かせていただきました。

生野義挙の志士はそれぞれの考えを持っており、面白く個性的な人物であると私は思います。彼らの行動を今回キャラクターとして制作し、多くの皆さんに知っていただけることはとてもいいことだと思っています。

また、生野義挙を通じて生野の皆さんの交流、そして他の地域の皆さんとの広い交流ができることは生野義挙が現代に新しい意味を持たせることになるのではと考えています。これからも生野義挙の魅力を多くの人に伝えることができれば思っています。

「生野義挙を知ってもらおうきっかけに」

神澤孝宣さん(宝塚大学造形芸術学部助教)

生野義挙150年を前に、朝来市と生野町観光協会から相談を受け、キャラクター制作に携わりました。

いまは、ゆるいイメージのキャラクターが多く自治体などで採用されていることから、他との差別化を図る意味でこの2種類のキャラクターを考えました。

イケメンキャラクターについては「歴女」と呼ばれる若い女性の皆さんに、ハムスターのキャラクターについては、子どもたちを中心に大人まで多くの世代の人たちに親しんでいただければと思っています。

地元である朝来市でも生野義挙についてよく知らない人も多いと聞きますが、キャラクターに物語性を持たせることによって、歴史を知るきっかけにもなってもらえればと考えています。



生野義挙をコミック化

幅広い年齢層の皆さんに親しんでいただけるよう、歴史好きの少女(生乃(いくの))を中心に、当時のイケメンキャラを通じて生野義挙やその歴史背景を知り、現在に転生したハムスターキャラから歴史を学ぶというストーリーです。

11月の完成を予定しています。どうぞお楽しみに!!

問 生野支所地域振興課 ☎679-5802

生野義挙碑

(生野町口銀谷)

文久3年10月の生野義挙の事跡を後世に伝えるため、昭和15年(1940)、生野代官所跡地に建立されました。

足跡を訪ねて

朝来市内を中心に周辺市町には、生野義挙に関連する史跡が残されています。

養父明神普賢寺(養父市養父市場)

養父市養父神社別当所、現社務所。文久3年9月25日に美玉三平(元薩摩藩士)、本多素行(元近江藩士の僧)が中心となり養父神社で第一回の農兵取立の会合を開きました。但馬のおもだった庄屋・豪商等が集まりました。



延応寺(生野町口銀谷)

文久3年10月11日、午後2時ごろ、澤宣嘉以下29人は延応寺に到着。その後午後8時ごろ、猪野々の丹後屋太田次郎左衛門方へ移り、翌13日に代官所を襲いました。本多素行と延応寺住職は平素から懇意の間柄で、この寺を利用したと考えられています。

西念寺(山口)

文久3年10月13日午後2時ごろ、南八郎ら一行13人は生野代官所を出て、山口村の西念寺に入りました。



山口護国神社(山口)

山口護国神社は、生野義挙で敗れこの地で自刃した志士たちがまつられています。生野義挙の生き残りとして、その後活躍した進藤俊三郎(原六郎)が建立のため多額の寄付をし、完成式にも出席しています。



妙見堂(山口)

南八郎らは山口村庄屋に人足のかり集めを命じ、午後4時ごろ岩州山(妙見山)中腹の険しい崖にある妙見堂に布陣して出石・豊岡藩の出兵に備えました。



山伏岩 (山口・山口護国神社)

文久3年10月14日、午後4時ごろ、南八郎ら13人は生野入りを決行するべく妙見堂を下山。周囲から銃撃され「もはやこれまで」と、通称 山伏岩の後ろの岩陰で自刃し果てました。

慶応4年(明治元年)正月、山伏岩で自刃した志士13人と中島・美玉・中條(右京・元出石藩士)・長曾我部(太七郎・阿波国)・小河(吉三郎・水戸藩士)の18人の首級を山口村の村民の懇願によって、山伏岩の下に葬りました。ただ中島太郎兵衛の首は遺族によって先祖の眠る墓地に葬られました。「正義十七士之碑」とあるのがその遺体を葬った場所です。

小河吉三郎自刃の地

(山内)

小河吉三郎(大川藤蔵)は、本陣解散の報を聞き、同じ水戸藩士である川又佐一郎と共に妙見堂を下山、丹波路に入ろうとしますが、農民達に追われサケジ谷の岩の上で自刃。川又は農民達に捕まり出石藩に引き渡されました。サケジ谷はこの場所から1キロほど先に行った山中にあります。



中條右京・長曾我部太七郎終焉の地

(神崎郡神河町猪篠)

文久3年10月14日、2人は生野の剣術師範であった伊藤竜太郎の説得に応じ、妙見堂を下山しましたが、姫路方面に行く途中、猪篠村(現神河町猪篠)にて農民達の鉄砲によって狙撃され死亡します。



美玉三平・中島太郎兵衛終焉の地
(六栗市山崎町木ノ谷)
美玉三平と、中島太郎兵衛・黒田與市郎兄弟は、生野から逃れこの地にたどりつくも、銃を持った農民に追いつまれ、美玉は射殺され、けがを負った太郎兵衛は弟・與市郎の介錯によって果てました。與市郎は自ら縄につき、京都の六角獄舎へ送られ後に獄死します。



中島太郎兵衛・黒田與市郎の墓

(和田山町高田)

養父郡高田の豪農であった中島太郎兵衛・黒田與市郎兄弟の墓は、和田山町高田、国道9号線沿いの生家の近くに建てられています。

平野國臣・横田友次郎捕縛の地

(養父市八鹿町上網場)

平野國臣(元福岡藩士)、横田友次郎(鳥取藩士)は、文久3年11月13日夜、生野を脱出し城崎へ向かいますが、豊岡藩兵によって捕縛されました。後に京都の六角獄舎へ送られましたが、禁門の変によって発生した火災に伴い他の囚人らとともに斬首されました。



多田弥太郎顕彰碑

(豊岡市出石町福見・浅間峠)

生野から逃れた多田弥太郎(出石藩士)は、澤宣嘉と行動をとるも遅れをとり大坂へ落ち延びます。その後、城崎へ潜入したところを出石藩役人に捕縛され、出石へ護送途中に刺殺されました。